令和４年度　第１回　荒尾市地域づくり推進委員会　議事要旨

日時：令和４年 9 月 27 日（火）　午前 10 時～午前 11 時 30 分
場所：荒尾市役所　市長公室
出席者：荒尾市地域づくり推進委員会委員
　　熊本県立大学　教授　澤田　道夫　委員
　　女性ネットワーク荒尾　JA たまな荒尾市女性部　会長　平島　仁美　委員
　　荒尾市校長会　会長　谷口　雄一　委員
　　社会福祉法人　荒尾市社会福祉協議会　事務局長　塚本　雅之　委員
　　荒尾市地域学校協働本部　地域学校協働活動推進員　田添　美奈子　委員
　　荒尾市花いっぱい推進協議会　監査　斎　智恵子　委員
　　荒尾地区協議会会長会　会長　河部　啓宣　委員
　　※欠席者　市民公募委員　甲木　喜一朗　委員
事務局　：荒尾市くらしいきいき課：松村部長、田中課長、村田課長補佐、岡元、冨重

１．開会
　田中課長（荒尾市くらしいきいき課）が開会を宣言し、資料の確認を行った。

２．市長挨拶
　本日は大変お忙しい中、荒尾市地域づくり推進委員会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。委員の皆様には日頃から市政の運営に関しまして、御協力をいただいておりますことに重ねて御礼申し上げます。
　さて、本市では、平成 24 年度に、協働の地域づくり推進条例を施行いたしまして、市民の皆さんと、行政によります協働のまちづくりに取り組んでいるところでございます。現在、全国的に高齢化の進行や、住民ニースの多様化等によって、地域コミュニティの衰退が大きな問題・課題となっています。このような問題に対応して、かつ地域の特性を生かした、まちづくりを進めていくために、重要になるのが協働のまちづくりであると考えております。
　また本市では、令和元年度から協働のまちづくりをさらに進めていくために地区担当職員制度を導入いたしました。この会議自体が約 3 年ぶりの対面開催と聞いており、また各地域におかれましても、新型コロナウイルスの影響等も大きく受けているかと思います。
　本日は、荒尾市の地域づくりの取り組み・現状について検証・ご助言をいただき、荒尾市の持続可能な地域づくりを進めていくため、忌憚のないご意見をいただければと思います。

３．委員紹介

事務局から当委員会の委員について別添の出席者名簿に基づき、紹介を行った。

４．会長・副会長選任

荒尾市地域づくり推進委員会規則第４条に基づき、会長、副会長の選任を行った。

委員の自薦・推薦がなかったため、事務局案として、会長に、熊本県立大学教授の澤田委員、副会長に、荒尾市社会福祉協議会の塚本委員の就任を提案し、承認された。

◇会長挨拶

・澤田会長

荒尾市は、全国の中でもトップクラスで早く「荒尾市協働の地域づくり推進条例」の制定を行っている。本日は、委員の皆様から貴重なご意見を頂戴し、これからの荒尾市の地域づくりを考えていきたいので、よろしくお願いしたい。

５．審議

審議（１）「新型コロナウイルスの影響を受けた地域活動に関する総括」、「令和４年度荒尾市協働の地域づくり活動方針」について

事務局から配付資料（資料１、資料２）に基づき、説明を行った。

《主な意見・質問など》

〇電子回覧板は具体的にどのようなのか。（平島委員）

⇒現在、紙で回覧板をしているところを専用アプリを使って、各自のスマホでも確認できるもの。（事務局）

〇令和元年度から開始している地区担当職員制度について、運用状況や地域との連携等はどのような感じなのか。（澤田会長）

⇒令和４年度７月でリーダー級、係長級、一般職級全ての交代があった。ここ２年間は、新型コロナウイルスの影響で地域活動が停滞し、なかなか地域活動にも入っていけない状況ではあったが、今年度からは、徐々にではあるが、定例会や事業等再開しているので、各地区参加していただいている状況。

審議（２）意見交換

事務局から各委員に対し、事前記入シートの配付を行っていた。質問項目は、所属団体のコロナ禍の活動、活動するにあたって苦労したこと、工夫したこと、地域の絆やコミュニティを守るために取り組むと良いことについて、各委員からご意見・ご提言をいただいた。

《主な意見・質問など》

〇平島委員（JA たまな荒尾支部）

・年間の活動計画の中で、室内での研修会や、調理実習等はほとんど休止し、屋外でできるグラウンドゴルフ大会や花植え等は実施した。

・私が住んでいる井川口は特に高齢化が進んでいる。コロナ禍前は、老人会が活発に活動をしていたが、約 3 年間コロナで中止している。特に女性は引きこもりになる傾向にあるので、健康体操やいきいきサロン等が復活すると外出する機会が作れる。

・コロナ禍前は、移動販売車が週に数回来ており、利用することでコミュニティが生まれていた。今後もコロナ禍の生活はしばらく続くかと思われるので、小さな単位でのコミュニティも大切だと感じる。

〇谷口委員（荒尾市校長会）

・感染症拡大防止の点から、あらゆる行事、学校教育活動の見直し、制限、延期、中止をせざるを得なかった。

・コロナ禍で長期休校があり、学習内容が終わるのかという心配もあったが、日程等を工夫し、問題なく進めることができた。また、荒尾市から小・中学生全員にタブレットを配布されており、休校中はオンラインを活用した学習で対応した。コロナ禍をきっかけに子どもたちや教職員等、オンライン会議に慣れて、例えば感染拡大防止のための自宅での学習になってもオンラインでの授業視聴で対応することができた。教育における DX 化も一気に進んだものと考える。

・活動や行事等をすべて再開していくのではなく、真に必要なものを検討し、実施していくことが今後は、必要だと感じる。

〇塚本副会長（荒尾市社会福祉協議会）

・感染状況が度々変動することから、地域活動を自粛すべきかどうかの地域住民の判断に一部混乱がみられたので、社会福祉協議会のホームページを利用して感染状況などを周知した。

・地域で行っている体操活動が長期間中止となり、住民の運動機能の低下が懸念されていたため、自宅で出来る運動の資料を手紙と一緒に対象者一人一人に送って、自宅で体操を継続することを促した。

・様々な年代の住民が集まって全ての世代を対象としたコミュニティ食堂を開催することで、準備や調理、食事、片付け等を通じて交流や親睦を深める。

・おもやいタクシーを利用した買い物ツアーなど、行政や社協あるいは市内の各種事業所などが提供しているサービスを組み合わせることで相乗効果を発揮する。

〇田添委員（荒尾市地域学校協働本部）
・コロナ禍での学校運営会議は、書面開催や地域の方（代表の方）と ZOOM 会議で行った。
・活動を実施する際は、検温・消毒・名簿作成等を行い、ここ２年間はコロナ禍で中止だったが、中止からコロナ禍で出来ることに発想を切り替えた。職場体験から職場講話を実施や、オンライン学習等も普及し新たな発見もあった。
・地域学校協働活動としては、学校に地域の方がたくさん入っていただき、子どもたちと親睦を深めることにより、お互い荒尾愛が深めると思う。また、各地区の事業に子どもが参画することにより、達成感が得られ、次は、子どもたちが自分に出来ること、立案を考えるようになり、郷土愛につながっていくと感じる。

〇斎委員（荒尾市花いっぱい推進協議会）
・令和２年度から令和３年度の活動は、ほとんど中止で令和４年度は徐々にではあるが再開している。園芸教室やバス旅行など三密になる事業は出来なかったが、花壇の植栽などは屋外でもあるので、マスクをして数名で実施した。
・特に高齢者がコロナ禍で外出する機会が減っているので、外出機会の創出が重要になってくる。（美化活動・健康体操等）

〇河部委員（荒尾市地区協議会会長会）
・コロナ禍の地域活動は各地区ばらつきがあった。そのような中認知症への取り組みや防災に関する取り組み、今年度から開始予定の空き家対策地区として府本地区が選定された。
・民生委員の不足（荒尾市 80%以下）や、地区協議会の役員不足等、全体的に後継者不足が問題点として挙がる。最近では、子ども会もなくなってきているので、学校側と協議する必要があると感じる。

澤田会長　様々な非常に貴重なご意見をいただいた。本日集まっていただいた団体の活動も様々な制約を受けていたことが分かった。従来は、広い範囲で地域活動等を行っていたと思うが、今後は小さな単位でのコミュニティ活動も検討する必要があると感じる。行政（地区担当職員）で、今後の地域づくりの方針やコミュニティの作り方等の発信を各地区行っていただきたいと思う。

６．その他
市民環境部松村部長から挨拶を行った。
お忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございました。荒尾市では、地域団体、企業との協働による花のまちづくりやコミュニティスクールの推進などに取り組んでいます。地区担当職員を導入し、職員と地域との関わりを強化し、より住民目線にたった行政運営に取り組んでまいります。本日頂いた貴重なご意見については庁内で検討

を行いまして、荒尾市の協働の地域づくりの推進に努めてまいります。

８．閉会

田中課長が閉会を宣言した。

なお、議事録要旨については、委員の確認を得た上で、荒尾市ホームページに公表することとした。